

ホームページへの掲載		
済	2月19日	掲載予定

岐阜県立揖斐高等学校

学校長 鈴木 英司
 学校住所 揖斐郡揖斐川町三輪1852番地 電話 0585-22-1261

- 1 会議の名称 学校評議員による会 (第2回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|-------|---------|-------------|
| 委員 | 錦野 悦朗 様 | 揖斐高同窓会長 |
| | 杉山 洋子 様 | 揖斐川町社会教育委員 |
| | 田中 良忠 様 | 揖斐川町商工会長 |
| | 栗田 祐子 様 | 揖斐厚生病院看護部長 |
| | 高橋 哲男 様 | 元揖斐郡教育研究所長 |
| 保護者代表 | 太田由紀子 様 | P T A会長 |
| 学校側 | 鈴木 英司 | 校長 |
| | 赤坂 和之 | 教頭 |
| | 成瀬 圭子 | 主幹兼事務長 |
| | 大平 隆司 | 教諭 (教務主任) |
| | 河合 均 | 教諭 (生徒指導部長) |
| | 下野 正人 | 教諭 (進路指導部長) |
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成28年2月5日(金) 13:20~15:00 揖斐高校 校長室
 評議員4名(栗田様が公務のためご欠席)、評価委員1名と学校側6名が出席
- 5 会議の概要

(1) テーマ 揖斐高校の今年度の取組と来年度へ向けての課題について

学校側 「生徒との懇談」では、5名(3年生4名 2年生1名)の生徒が「高校生活で頑張ったこと」「揖斐高校の良いところ」「地域の皆さんに伝えたいこと」などを発表し、質疑応答を挟みながら、貴重なご助言をいただいた。その後資料に沿って、各分掌から今年度の取組について報告し、来年度へ向けての課題を説明した。

意見1 揖斐高校の地元での評価は、近年高くなってきている。野球部、フェンシング部の活躍など、卒業生にとっては嬉しい限りだ。登下校の生徒の姿を見ているが、挨拶や制服の着方も以前と比べずっと良くなってきた。教育が行き届いている証拠だと思う。地元に残りたいという生徒が多いということだが、勤めたくても勤める場がないのが現状である。町としても、職場を増やしたい、企業を誘致したいと考えているが、交通量が増えるなどを理由に、なかなか土地を提供してくれる人がいない。今後も企業誘致に努め、有為な人材が地元で働けるような場を提供したい。

意見2 育樹祭に参加できたことを一生の誇りとしてほしい。生徒たち一人一人が、高校で何がやりたいか、何を学びたいかがはっきりしており感心した。周囲への感謝の気持ちを忘れないことも大切だ。「服装の乱れ」の改善は生徒の力でできるようになれば良い。「学習成果発表会」では、生活環境科だけでなく、普通科の発表も増やしてほしい。クラス単位で「学校の誇り」を発表するなど、工夫するとよい。また、学習成果発表会の開始前の諸注意は、生徒に対するものは学校で済ませ、会場では来場者全体に呼びかけるように、雰囲気づくりに努めてほしい。

- 意見3 「薬物乱用防止講話」は今年ライオンズクラブ主催のものを実施したが、そういう機会を通じて薬物は絶対だめだという意識を高めていってほしい。「デュアル実習」については、以前中学生の体験実習を引き受けたこともあり大変興味を持って聞いた。どういことを学びたいか、どうい体験がしたいかを明らかにし、商工会などに問い合わせるとよい。子供たちの希望を叶えるために、ぜひ協力したいという企業が地元にはあるはずだ。揖斐高ショップは、地域との密接なつながりを大切にしている活動として大変評判も良く、今後も永く続けてほしい。
- 意見4 「学習成果発表会」は、年々質が高くなってきており、学校の雰囲気の良いさも感じることもできた。今後も揖斐高校の様々なアイデアを発信してほしい。自転車マナーもよくなってきている。また、「生徒との懇談」では、かつての教え子の、心身ともに成長した姿を見ることができ、喜ばしい限りだ。新聞で活躍ぶりを見た時にも感動した。教育とはすぐに成果が出るものではなく、長い目、先を見据える目が必要である。「費用対効果」ではないが、手をかけた分だけの成長が期待できるものであると実感している。今後もさらにその充実に努めてほしい。
- 意見5 「生徒との懇談」では、普段からよく知っている生徒もおり、一生懸命通学している姿や部活動に取り組んでいる姿を、いつも感心して見ている。地域の人たちは、見ていないようできちんと見ている。私は、揖斐高校の「家政科」（現「生活環境科」）出身だが、今は高校で学んだこととは別の仕事に就いている。高校で学んだことは、もちろん大切だが、他にも道はある、他にもチャンスがあると柔軟に考えることも必要である。選択肢を広げることで、より豊かな未来が広がることもある。中途退学していく生徒も中にはいるが、粘り強く指導してほしい。

6 会議のまとめ

今回は「生徒との懇談」という形式をとったが、和やかな雰囲気の中、生徒たちの生の声を聞いていただけたことで、より開かれた学校づくりに近づけたものと確信する。生徒たちにとって、地域の方々にあたたかく見守っていただいていることを再確認できる、又とない機会となった。今後も地域の方々に、本校の魅力をより具体的に発信していくことが必要だと改めて感じた。

また、「学習成果発表会」へは、多くのお褒めの言葉以外にも、ご提言もいただいた。このことについては、生活環境科だけではなく、学校全体の課題として取り組み、より一層の充実に図っていきたい。